

第39回 キッズ・シンガーたちと フィンガー5の登場

誰でも似たような思いはあるのかもしれないませんが、私が小学生だった昭和30年代、自分の年に近い歌手、いわばキッズ・シンガー（私の定義は「義務教育終了以前のプロ歌手。童謡歌手は除く」）の存在が妙に気になったものでした。思いついたところを列挙してみると――

● 田代みどり。昭和36年、12歳時にカバー曲『パイナップル・プリンセス』でブレイク。

● 目方誠。同36年、13歳時にカバー曲『トランジスター・シスター』でデビュー。『マッシュポテト』の歌詞も秀逸。のちの美樹克彦。デビュー前、テレビドラマ『風小僧』に出演。

● 後藤久美子。同37年、6歳時にカバー曲『可愛いベイビー』を歌ってデビュー。中尾ミエらとの競作でしたが、デビュー時の中尾は16歳でした。人気レーサー、ジャン・アレジと結婚したゴクミさんではありませぬ。

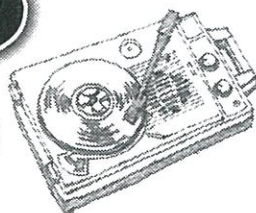
● 梅木マリ。同37年、12歳時にカバ

ー曲『可愛いグッド・ラック・チャーム』でデビュー。のちの松平マリ子、作曲家の三木たかしと結婚して

名曲カルテ

昭和歌謡と いままで

堀井六郎
絵・松本 浦



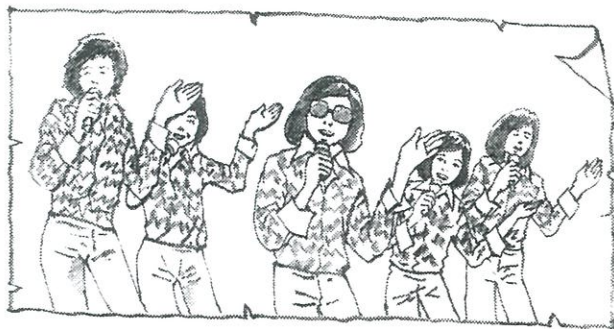
引退。

やがて対象シンガーやグループが自分より年下が多くなっても、その嗜好は変わらず、永田英二（同42年、フォーリーブス結成時のメンバー。在籍時、小学生だったため、脱退して、のちにソロ）、ナル、リトル・ギャング、ミルク（同54年にデビューした小学生の女の子三人グループ。萩野洋子が在籍）からフォルダまで、そしてフランキー・ライモン&ザ・ティーンエイジャーズ（米国キッズ・グループの草分け。ダイアナ・ロスやジャクソン5のお手本）、レ・サーフス（映画『アイドルを探せ』に出演）など、国内外

を問わず今でも見聞きしています。ありがたいことに、最近はいちチューブで映像も容易に楽しめるようになったので、好事家の方はぜひどうぞ。

しかし、日本を代表するキッズ・グループの極め付きといえ、このグループに止めを刺すでしょう。フィンガー5です。

メンバーは沖縄出身の5人兄弟妹ですが、



まだ沖縄が日本に返還される前の昭和44年、両親とともに上京、「オーブラザーズ」のバンド名で米軍基地を回り始めます。リードボーカルの晃君8歳、妙子ちゃん7歳の頃です。

翌年、「ベイビー・ブラザーズ」と改名、キングレコードからメジャーデビューを果たしますが、売れません。この当時の彼ららしき映像をテレビで見た記憶があるのですが、全員が演奏しながら歌っているのに、動きもなく垢抜けた印象に欠けていました。

そこで再度改名し、いよいよ「フィンガー5」としての活動となるのですが、再起を期し自分たちが作った第1弾も不発に終わります。背水の陣でフィリップス・レコードに移籍、ここで阿久悠&都倉俊一コンビの傑作『個人授業』との邂逅が生まれます。昭和48年8月、晃君が変声期を迎える1年前の夏、小学6年生にとって怒涛の日々が始まりました。